

赤十字NEWS

November 2015 Vol.906

<http://www.jrc.or.jp>

11



日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

シリア難民問題 赤十字、各国で 人道支援を展開



出口の見えない内戦が続くシリア。1200万人の難民のうち、国外脱出者は400万人を突破し、遠くヨーロッパにも大勢の難民が押し寄せる事態になっています。住む家を追われ、仕事を失い、安心して暮らせる日常を奪われた人びとに対し、私たちができるることは関心を持ち続けること、そして支援を届ける努力を絶やさないことです。シリア国内では同国赤新月社のスタッフやボランティアがいのちがけの救護活動を展開。ヨーロッパでも、各国赤十字社が難民への支援物資配布など支援活動を強めています。

9月22日、ハンガリーの国境の駅ヘジェシュハロムに到着した難民に対し、救急・衛生用品などを支給する同国赤十字社のスタッフ

© Zsófia Palyi/Hungarian Red Cross

CONTENTS

| TOPICS | TOPICS | SPECIAL | AREA NEWS | WORLD | 8 |
|------------------------|------------------------|--|--|--|---|
| 2 来春開設 赤十字の看護5大学で共同大学院 | 2 「NHK海外たすけあい」事前キャンペーン | 4 5 千葉県支部義肢製作所 義肢・装具の製作を通じ歩く喜び 生きる力をサポート | 6 熊本、大阪・福岡・静岡・神奈川・福島 岩手・広島・香川・山口・兵庫・鹿児島 各地の赤十字病院表彰 アフガニスタンの車いすバスケットボールチーム来日 看護大学フロンティアセミナー 台風第21号与那国町災害義援金 赤数字回答／プレゼント | 7 フィリピン中部台風復興支援事業 難民申請者支援（オーストラリア） コラム 被爆70年 守るべき いのちと尊厳 | 8 |



今月の出会い



赤十字語学奉仕団委員長
清水 賢治さん

語学をツールに世界と相互理解や共感を広げる

今年11月で創立50周年を迎えた本社赤十字語学奉仕団の委員長を務める清水賢治さん。「『苦しんでいる人を救いたい』という赤十字のミッションの下、同じ思いの仲間と一緒に、得意な語学を通じて活動できるのがうれしいですね」とやりがいを語ります。

同奉仕団には現在、高校生から高齢者まで幅広い年齢層の191人が参加しており、外国籍や障がいの方もいます。実は、語学レベルや得意分野も一様ではないといいますが、「そうした多様性や個性をお互いに尊重していることが語学奉仕団の強みになる」と清水さんは強調します。「語学は相互理解や共感を広げていくために

重要ですがあくまでもツール。一番大切なのは、相手の立場に立ち、理解しようという気持ちだと思っています」

在留外国人への医療通訳など、周囲からの奉仕団への期待にも変化が生まれています。こうしたニーズにどう応えていくのかも委員長の手腕の発揮しどころ。「手始めに大森赤十字病院（東京都大田区）の受付窓口での通訳ボランティアをスタートしました。ミスがいのちに関わるだけに医療通訳のハードルは高いのですが、赤十字組織の一員として期待に応えていく力を付けていきたいと思っています」

PROFILE

大学4年生だった昭和56(1981)年、国際身体障害者技能競技大会(東京)での通訳・介助を行うため語学奉仕団に入団。平成16(2004)年に再入団し、今年で委員長5年目を迎えています。5年後の東京パラリンピックで通訳や介助などの活動を担えるよう、団員のスキルアップにも取り組んでいます。

阿蘇中岳の噴火で連絡調整要員などを派遣！



9月14日午前9時43分に発生した阿蘇山噴火に対し、同火山防災会議協議会(会長:佐藤義興・阿蘇市長)のメンバーでもある熊本県支部は、同日午前10時30分に警戒本部を設置。阿蘇市に連絡調整要員を派遣し、情報収集など対応に当りました。

同支部では翌15日まで、阿蘇市役所(災害対策本部)や阿蘇火山博物館(現地災害対策本部)で関係機関との連絡調整や情報収集活動を継続。また、衛星通信機能を有した現地災害対策本部車両と支部間でライブ映像を送受信しました。2日間で7人の調整要員と通信指令車、現地本部車両など救護車両3台を派遣しました。



大量の火山灰と大きな噴石を含む黒煙が上空2000メートルまで噴き上がり、気象庁は噴火警戒レベルを3(入山規制)に引き上げました

伊都福岡ライオンズクラブ 献血 累計2万人を突破！



同ライオンズクラブは平成10年から毎年2回の献血に協力。右は2万人目の波多江さん

9月18日に実施された伊都福岡ライオンズクラブ主催による献血で、平成10年の開始からの献血協力者数が累計2万人を突破しました。会場となった福岡舞鶴高等学校には、福岡県内の献血バス7台が集合。689人の皆さんに400mL献血への協力をいただきました。2万人目となったのは、今回が献血初挑戦の同校3年生、波多江将大さん(17)。波多江さんには、同ライオンズクラブと血液センターから感謝状と記念品が贈られました。

原発事故に備えて第1ブロック支部が合同訓練



訓練は、福島第一原発事故の後の教訓を生かして行われました

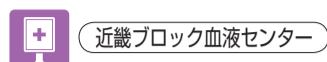
第1ブロック支部(北海道と東北6県)の合同災害救護訓練が9月29、30日に郡山市のビッグパレットふくしまで行われ、北海道・東北および茨城県から140人の救護員とボランティア230人が参加しました。原子力災害下での救護活動や放射線の影響などについて学び、簡易除染や防護の手順などを実習。また、日赤スクリーニングチームが避難者の放射性物質の測定と除染作業の訓練を初めて行いました。

「ワールド・ファースト・エイド・デー」
各地でイベント
いのちを救う力をみんなのものに！

9月第2土曜日は救急法の普及に取り組む「ワールド・ファースト・エイド・デー」。日本でも9月12日を中心に、AED(自動体外式除細動器)を使った心肺蘇生などを体験するイベントが各地で開催されました。



「献血甲子園」開催！ 弁当・川柳・大喜利などでコンテスト



近畿ブロック血液センターと近畿2府4県の血液センターは10月4日、献血啓発に向けた企画などを競うコンテスト「献血甲子園」の授賞式を行いました。

献血啓発をコンテスト形式で競い合うのは全国初。「持続可能な若年層献血推進対策」「鉄人バランス弁当」「献血川柳」「献血大喜利」の4部門に団体・個人から4000余りの作品が寄せられました。大学など15団体が応募しました。献血推進対策部門は京都府学生献血推進協議会による「学生の情熱が若者を変える」と題した広報活動が最優秀賞を受賞しました。



「鉄人バランス弁当」部門、最優秀賞を受賞したpre-dietitians代表の水野晴香さん(右)



20品目以上の食品を使用

静岡×神奈川 高校生56人が初交流会！



仲間を増やす、いろいろな活動を知ることがJRC活性化への力に

青少年赤十字(JRC)に所属する静岡県と神奈川県の高校生メンバーの交流会が9月27日、神奈川県支部で初めて開催されました。参加したのは静岡県の37人と神奈川県の19人の計56人。

交流会は、神奈川県のメンバーが考案した自己紹介ゲームとジェスチャーゲームでスタート。両県の特徴的な活動をメンバー代表が紹介し合いました。分科会では、各学校の活動内容や定例会の運営方法などを報告し、交流を深めました。

2つの汽船会社と災害時の相互協力協定を締結



左から、瀬戸内海汽船の仁田社長、広島県支部桂木事務局長、石崎汽船の一色社長

広島県支部は9月25日、広島港から松山観光港(愛媛県)への航路を持つ2つの汽船会社(瀬戸内海汽船株式会社と石崎汽船株式会社)との間で「災害時等における救護活動への相互協力に関する協定」の締結調印式を行いました。

南海トラフ地震では、広島県から四国地方への救護班派遣が想定されています。今回の両社との協定により、救護班や救護資機材、車両などの大規模な海上輸送の道が開かれることになります。

平成27年台風第21号 与那国町災害義援金のご案内

日本の最西端に位置する沖縄県与那国島は9月28日、台風21号による暴風雨のために、全779世帯の約35%にあたる275戸が損壊するなど甚大な被害に見舞われました。日本赤十字社は、職員を派遣し、被災状況を調査した上で養生シートを配布。また、被災者支援に向けた義援金の受け付けを行っています。義援金は全額が被災された方々に届けられます。皆さまの温かなご支援をお願いします。



受付期間 平成27年11月30日(月)まで

受付口座 郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)

口座記号番号 00150-7-696295

口座加入者名 日赤平成27年台風第21号与那国町災害義援金

※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます。

※窓口でお渡しする半券(受領証)は、寄付金控除申請の際に必要となります。

※銀行振込、被災県の沖縄県支部の口座でも受け付けております。

詳しくは日本赤十字社のホームページ(<http://www.jrc.or.jp/>)をご覧ください。



4つ

赤十字のノーベル賞受賞数

連日の日本人受賞に沸いた今年のノーベル賞。赤十字も過去ノーベル平和賞を合わせて4つ受賞するなど、その歴史に名を刻んできました。

ノーベル平和賞は、国家間の友好関係、軍備の削減・廃止、および平和会議の開催・推進のために最大・最善の貢献をした人物・団体に贈られるもので、第1回(1901年)の受賞者には赤十字思想の生みの親アンリー・デュナンが選ばれています。団体としては、赤十字国際委員会(ICRC)が第1次世界大戦中の捕虜保護活動に対し1917年に。また第2次世界大戦の最中の1944年にも幅広い人道支援活動が評価されICRCが受賞。赤十字発足100周年の1963年には、世界の飢餓や災害への救護活動、保健衛生活動などへの貢献によりICRCと赤十字社連盟(現 国際赤十字・赤新月社連盟< IFRC >)がともに受賞し、赤十字・赤新月運動としては合わせて4つ目の受賞となりました。

ICRCの3回の受賞は同一団体による最多受賞記録となっています。

プレゼント

3面で紹介いたしました映画「海難1890」のチケットをペア5組にプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。



- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS11月号を手にされた場所(例/献血ルーム)
- ⑥11月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?(いくつでも)
 - ⑦共同大学院開設 ⑧赤十字語学奉仕団 50周年式典
 - ⑨名誉総裁皇后陛下からのお見舞い ⑩核兵器廃絶へ シンポジウム
 - ⑪常任理事会開催報告 ⑫「NHK海外たすけあい」事前キャンペーン
 - ⑬日赤初の外国人救護活動 映画「海難1890」 ⑭健康豆知識 冷え症
 - ⑮特集 千葉県支部義肢製作所 ⑯エリアニュース ⑰各地の赤十字病院表彰
 - ⑯アフガニスタンの車いすバスケットボールチーム ⑰看護大学フロンティアセミナー
 - ⑰与那国町災害義援金 ⑱赤数字 ⑲プレゼント ⑳ワールドニュース
 - ⑲赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしています。

応募先 ● 郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 企画広報室 赤十字NEWS11月号プレゼント係
FAX/03-3432-5507
メール/koho@jrc.or.jp(件名「赤十字NEWS11月号プレゼント係」)

応募締切 ● 11月30日(月)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



各地の赤十字病院、医師が関係機関から表彰

救急医療の提供や地域保健医療活動は、全国92の赤十字病院が果たす大きな役割の一つ。この程、これらの取り組みが、関係各機関から表彰を受けました。

洋上救急出動61件を評価

沖縄赤十字病院は10月5日、洋上救急制度創設30周年記念式典にあたり、(社)日本水難救済会から表彰され、名誉総裁盾を贈られました。洋上救急は、海上保安庁や自衛隊のヘリなどで医師・看護師が洋上へ向かい、船舶上の傷病者を救助する制度。同院はこれまでに61件・延べ112人の医師・看護師を派遣してきました。同院の佐々木秀章救急部長は「傷病者の国籍は様々ですが、海で働く世界の方々に頼られています。今後も地域、国境を越えて協力していきたい」と喜びと抱負を語っています。



高円宮妃殿下から盾を贈られた沖縄赤十字病院の大嶋靖副院長(中央)と、上原一成事務部長(左)

本社での救急医療の研修会で指導する石井部長(左)と西山部長(中央)

救急医療に貢献

平成27年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰には、医療機関として前橋赤十字病院が選ばれたほか、個人として岡山赤十字病院の石井史子検査部長兼医療社会事業部長、高知赤十字病院の西山謹吾・救命救急センター長兼救急部長の2人も受賞。救急の日の9月9日に表彰されました。

島しょ地域での20年以上の巡回診療を評価

また鹿児島赤十字病院の永井慎昌内科部長は、第一生命保険株式会社主催の第67回「保健文化賞」を受賞。無医村だった島しょ地域での巡回診療を20年以上にわたり継続してきたことなど地域医療への貢献が評価されたものです。10月6日の表彰式では厚生労働大臣から表彰状が贈られ、翌日には天皇后両陛下へ拝謁を賜りました。



永井部長

ICRC支援のアフガニスタン車いすバスケットボールチームが来日 パラリンピック目指し初の国際大会出場

武力紛争が続くアフガニスタンから男子車いすバスケットボールチームが10月に来日。来年9月のリオパラリンピック大会出場をかけた予選会(千葉)に参加し、日本や中国など5カ国のチームと対戦しました。

赤十字国際委員会(ICRC)はアフガニスタンで7カ所の義肢義足リハビリテーションセンターを運営しています。車いすバスケットチームは、ICRCが社会復帰プログラムとして5年前に結成を支援。選手の中には地雷や戦闘で脚を失ったり、半身不随になつた人もいます。同チームは今回が初の国際大会出場。結果は5戦全敗でしたが、選手からは「初めての国際大会に出場できただけで夢のよう」「試合に出場し、得点できたことが嬉しい」と歓喜の涙があふれました。



同リハビリセンターのICRC職員も同行。健康管理や生活のサポートなどでチームを支えました

看護職者育成における大学と病院の協働のあり方を探る 平成27年度 日赤看護大学フロンティアセミナー開催

日本赤十字看護大学フロンティアセンター主催による「平成27年度フロンティアセミナー」が12月19日、同大学内で行われます。今年度のテーマは、昨年に引き続き「看護師の人材育成」。看護師の知識・技能向上に向けた、大学と病院の協働のあり方について議論を深めます。

- 日 時 平成27年12月19日(土) 13~16時
- 場 所 日本赤十字看護大学 201講義室(東京都渋谷区広尾4-1-3)
- 参加対象 医療機関で現任教育に携わる看護師、看護基礎教育に携わる大学教員など(学部学生、大学院生も可)
- 参 加 費 1000円
- 申込締め切り 12月4日(金) ●お問い合わせ 03-3409-0875

詳しくはホームページをご覧ください 日本赤十字看護大学フロンティアセンター <http://legacy.redcross.ac.jp/frontier/>

WORLD NEWS

フィリピン中部台風復興支援事業 住民参加で見えはじめた生活再建のかたち

2013年11月8日、フィリピン中部を襲った台風30号は、8000人近い死者・行方不明者を出すなど各地に甚大な被害をもたらしました。発災から2年。日本赤十字社はフィリピン赤十字社と共同で、被災住民自身の力を生かした復興支援事業に取り組んできました。いまその成果が具体的な形になって見えはじめています。

ボランティア80人を先頭に 地域保健活動

5つの分野にまたがる総合復興支援事業を展開しているのは、セブ島北部に位置するダンバンダヤン郡(人口約8万6000人)です。同郡の5つの村を対象に「住宅支援」「生計支援」「防災」「給水・衛生促進」「地域保健」の支援に取り組んでいます。

その中の1つ、地域保健の分野では、健康新生活できる環境を住民自らがつくり出していくよう、これまでに80人のボランティアを育成してきました。

同分野を担当する上原さゆりさんは「彼ら自身が村の保健問題を見つけて出し、解決のための活動を考える段階にまできました。今後は住民への保健教育や地域の清掃などを実践していく予定です」と進捗状況を語ります。

同郡内の9つの学校を対象に衛生教育を促進する給水・衛生促進の分野では、子どもたちの主体性を重視。赤十字からトレーニングを受けた校内の衛生委員会が、児童・生徒全体に広げていく形で進められています。

クリスマスまでに全員に住宅を

住宅支援では、建設・補修を合わせて約900戸の住宅再建を実施しています。この事業も、建設者任せではなく、建設現場の見回りや作業チェックなどをボランティアが担当。地域全体で取り組む工夫の下に進められています。入居者からは「今まで住んだ家で一番!」と笑顔がこぼれています。

「完成した家に被災者の皆さんのが幸せそうに暮らしているのを見ると込み上げてくるものがあります」と語るのは住宅支援を担当する吉田拓さん。「対象者全員に今年のクリスマスは新しい家で過ごしてもらいたい。そのためにも11月中にはすべての住宅建設を終わらせる予定です」

このほか、生計支援として742人に小規模事業を始めるための資金となる現金を支給し、50人に職業訓練を実施。防災については救命救急、地域防災の講習会をボランティアとともに開催し、今後は行政との協力の下、防災計画作成、訓練へと進めていく予定です。

来年6月の新学期を新校舎で

レイテ島で日赤が支援しているのは学校補修・再建事業で、12校を対象に実施。

工事開始前、住民の多くは「日赤に任せおけば」と受け身でしたが、工事が進む



住宅の建設現場で作業の確認を行う吉田さん(左)

につれ変化が見られるようになってきました。同事業を担当する藤井稔さんは「住民の皆さんのが屋根や壁の色、デザインなどに意見を寄せてくれることも。意見の多くは、学校長の承認を得て取り入れられてきました」と住民参加に手応えを語ります。

来年4月までに工事を完成させ、6月から始まるフィリピンの新学期に間に合わせる予定です。

オーストラリア赤十字社 難民申請者支援プログラムの チームリーダー タリア・スタンプさん

難民申請者は人種や宗教、国籍、政治思想などの理由で迫害を受けたことに強い恐怖感を持っていて、保護を必要としています。非人道的扱いに対するトラウマは、オーストラリアに到着後も精神的な影響として続いている、社会的な孤立や精神的な落ち込みなどの問題も浮かび上がっています。

残念なことに、オーストラリアでは「難民」が政治問題になっています。ボートで到着した難民申請者への政府方針は特に厳しく、ビザ取得まで3~4年間も収容所に置かれることもあります。収容所から出る

ことが許されても、多くは働くことは認められません。2週間に1度の生活手当も十分な額ではなく、ホームレスになってしまう人もいます。

私たち難民申請者支援チームでは、彼ら自身が自分の強みを生かしていくような支援が必要だと認識しています。その実施に向けて、より多くのボランティアの活用を考えています。今回の来日では、ボランティアにもっと支援活動に関わってもらうための案やボランティアへのサポート方法などについて、意見交換きました。

オーストラリア赤十字社で難民申請者支援プログラムのチームリーダーとして支援を行っているタリア・スタンプさんが、10月14日から30日まで研修のために日本赤十字社を訪問しました。シリア難民が国際的な人道課題になる中、オーストラリアでも難民の受け入れは大きな政治問題に。同国での難民支援の課題などについて話を聞きました。

あなたの声を赤十字に寄せてください! ~アンケート(英語)ご協力のお願い~

国際赤十字は、紛争や災害など世界各地で起きることが予想される3つの人道的課題(1. 紛争や災害の中で起きるさまざまな暴力行為の防止と対応、2. 災害への取り組みと災害に強い地域づくり、3. 人道的活動の安全確保)にどう取り組んでいくべきなのかのアイデアを“Voices to Action”と題して、インターネット(www.voicestoaction.org)を通じて募集しています。

世界から寄せられた声は、12月にスイスのジュネーブで開催される赤十字国際会議で取り上げられます。ウェブサイトは英語です。アンケートはどなたでもご回答いただけますのでぜひご参加ください。



1954年3月1日、3度目の閃光 ~広島、長崎、そして第五福竜丸~

1954年3月1日午前3時45分、マーシャル諸島共和国ビキニ環礁で米軍は水爆実験を実施。そこから160キロ地点にいた遠洋マグロ漁船「第五福竜丸」は、爆発により生じた大量の放射性降下物を浴び被ばくしました。

「死の灰」を浴びた乗組員

爆発の瞬間、西の空に強烈な閃光を見た乗組員の一人、大石又七さんはこの瞬間を次のように証言しています。「夜明け前の静かな洋上に、稻妻のような大きな閃光がサードと流れるように走った。(中略) 光は、空も海も船もまっ黄色に包んでしまった」(大石又七『死の灰を背負って一私の人生を変えた第五福竜丸』)

日が昇り明るくなり始めた頃、降り出した雨の中に白い粉(放射能に汚染されたサンゴ礁の粉塵など、いわゆる「死の灰」)が混じりはじめ、やがて雪のようにデッキに積もり、その日の夕方にはめまい、頭痛、吐き気、下痢が乗組員を襲いました。

3月14日に静岡県の焼津港に帰港するまでの2週間、乗組員たちは死の灰にまみれ、汚染された水や食料での生活を強いられます。無線長の久保山愛吉さんが亡くなったのは、それから半年後の9月23日のことでした。

「被爆体験」という日本人の記憶

第五福竜丸は爆心地から160キロほど離れ

た地点にいたにも関わらず、2000~3000ミリシーベルトの量の被ばくをしたと推測されています。これは広島の爆心地から800メートル離れた地点の被ばく量に相当する値。核実験の水爆(広島型原爆の約1000倍)がまき散らした放射線がいかにすさまじいものだったのかがうかがい知ることができます。

当時の日本赤十字社島津忠承社長は手記の中に次のように記しています。

「私の頭の中には、他のすべての国が核兵器の恐怖を叫ぶことに、ためらいを感じたり、あきたり、反対したりしたとしても、日本だけは、それを叫び続けなければならないし、日本だけがそれを叫ぶ権利がある、という思いが、いつもあった。広島、長崎の被爆体験はいつもながら、日本は1954(昭和29)年の、南太平洋のビキニにおける核実験でも、降灰によって漁船が被災している。漁船の善良な乗組員だった久保山愛吉さんの痛ましい死は、すべての日本人の記憶にやきついていることであろう」(島津忠承著『人道の旗のもとに~

日赤とともに35年~』講談社、昭和40年) 久保山さんの死は原水爆禁止署名運動の全国的な広がりへつながり、被ばく翌年には3000万の署名とともに原水爆禁止大会の開催に至りました。しかし1945年から2013年まで地球上で行われた核実験は2050回以上。そのうち500回以上が大気圏内核実験で、放出された放射能のほとんどは太平洋に振り落ち、海水を汚染したと言われています。



©第五福竜丸展示館
廃棄処分寸前のところ新聞の投書がきっかけで保存の声が高まり、今は東京都の施設として「夢の島公園」(江東区)内で一般に公開展示されている